

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月13日
江別市立東野幌小学校

1 本年度の重点目標

「子どもに寄り添い、みとめあう学校
～レジリエンスを高め、自分の考えを表現できる子の育成～」

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点・学校づくり	□親和的な学級づくりを基盤とした「子どもに寄り添い、みとめあう学校」づくり	A	・生徒指導提要について理解を深め、児童に寄り添い、その成長の過程を支えていく。	A	A
	□レジリエンスを高め、考えを表現できる子の育成	A	・校内研究の充実に努め、授業づくりを通して重点的に取り組む。	A	A
	□「学びの土台づくり」の充実 ①親和的な学級づくり ②特別支援教育の充実 ③チーム東野小の協働体制の充実 ④研修による教員の資質向上 □安全・安心への意識づくり ①組織的な生徒指導対応 ②命を守る教育 ③校舎の施設・設備の点検・対策 □いじめ対応・不登校支援 □情報モラル教育 □感染症対策 □働き方改革の推進 □教職員のコンプライアンス確立	B	・児童理解、学級づくり、特別支援教育についての研修の実施。 ・「心とからだ、命を守る教育」のさらなる充実。 ・系統的な情報モラル教育の実施。 ・働き方改革コアチームを中心とした具体的な取組の推進。 ・教職員のコンプライアンスの意識を高める定期的な啓発の場の設定。	A	A
教育課程・学習指導	□授業づくり（授業改革） ①個別最適な学びと協働的な学び ②表現力を高める授業づくり ③ICTの日常的な有効活用 □高学年の教科担任制及び全学年での交換授業の推進 □個別家庭学習の工夫 □基礎基本の定着と対話を重視した実践 □支援員等との協力体制	B	・校内研修を中心とした授業改革の取組の推進。 ・学校長のリーダーシップのもと、教科担任制を推進。 ・学習支援員、特別支援教育支援員等のサポートによるきめ細かな児童への指導体制の構築。	A	A

生徒指導	☐ 挨拶や思いやり、言葉遣いを育み、社会性を高める取組 ☐ ①ひびきあい運動 ☐ ②PTAの行事や活動、ふくろうの会を通しての地域住民との関わり ☐ 個に寄り添った指導支援 ☐ 道徳教育の充実 ☐ 読書活動の推進 ☐ レジリエンスを高める取組	A	・本校の特色である「ひびきあい運動」のさらなる充実。 ・ふくろうの会を中心とした地域との連携の充実。 ・特別の教科「道徳」を要とした道徳教育の充実。	A	A
健康安全指導	☐ 体力づくりの推進 ☐ ①体育科授業の充実 ☐ ②新体力テストの活用 ☐ ③中休み・昼休みを利用した体力トレーニングの取組 ☐ 健康な身体づくり ☐ ①食に関する指導 ☐ ②基本的生活習慣定着に向けた取組	A	・体育の授業改善に向けた取組の充実。 ・体育の準備運動等の全校での統一した取組の実施。 ・休み時間等を通じての体力向上の取組の充実。	A	A
地域連携	☐ 各種便り、HP、一斉配信メール等を活用した学校情報の発信と充実 ☐ 家庭への連絡、家庭訪問、保護者相談会の充実 ☐ 緊急時を想定した引き渡し訓練の取組 ☐ 地域との情報共有の場の充実（地域保全に関わる担当者会議、ふくろうの会通信） ☐ 学校運営委員会との連携（コミュニティスクールの充実） ☐ 地域行事への協力	A	・児童の姿を通しての的確な情報発信の工夫。 ・学校便り、学校ホームページ等の内容の充実。 ・地域行事への教職員理解の促進。	A	A
小中一貫教育	☐ 「江別市小中学校教科系統表」を基にした授業実践 ☐ 「学習・生活のスタンダード」に基づく一貫した指導 ☐ 部活動体験や中学校登校体験、中学校吹奏楽部出前演奏等における補完的な指導 ☐ 中学校区の情報交流及び各部会提案の取組の充実 ☐ 各校の全校研参加を通して中学校区のめざす子どもの姿の確認 ☐ キャリア教育	B	・教科系統表に基づく指導の充実と検証。 ・野幌地区小中一貫教育の推進組織の見直し。 ・野幌地区小中一貫教育の具体的な取組内容の見直し。	A	A
【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】 ・保護者の願いを受け止めて努力している学校の姿がうかがえる。 ・学校はきめ細やかに児童、保護者に対応しているととらえている。 ・学校は引き続き、自信をもって教育活動にあたってほしい。					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない